名古屋市立大学
大学院医学研究科・医学部 広報誌

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2021.1. VOL.44

contents

極 研究&教育 Current topics in research and education
人 時の人 People in the news
技 最新医療の紹介 Latest developments on the medical front
和 お知らせ Information

東部・西部医療センターの大学病院化について

開学70周年の佳節を迎えた本年、名古屋市立東部・西部医療センターの令和3年4月の大学病院化が決定いたしました。

両センターの名称は、大学病院であることを明示するとともに、12年超にわたり市民や医療機関にブランドとして定着し、親しまれていることから「名古屋市立大学医学部附属 東部・西部医療センター」に決定しました。

名市大病院とあわせた3病院を一体的に運営することで、約1,800床の病床を擁する国公立大学病院では全国最大の大学病院群として生まれ変わります。

大学病院化によって、原則、医師は教員へ移行するとともに、増員を含めた適切な配置を図ってまいります。これにより、3つの大学病院それぞれの特長を生かした機能分担ならびに専門・先進医療機能の強化を図ることが可能となり、市民ニーズに応じた、より的確かつ最高水準の医療を継続的に提供することが可能になります。また、約1,800床を活かした多様な症例による臨床研究の推進、レベルの高い臨床実習、卒後研修などを通して、力ある医療人の育成を行ってまいります。更に、地域の医療機関との連携を強くしながら市民の皆様の健康を守る地域の高度な医療ネットワークを構築してまいります。

大学病院化は、名市大医学部・医学研究科が飛躍するための力強い第一歩であり、また今後の発展の序章でもあります。令和7年度の救急・災害医療センターの開棟に向けて設計を進めております。東部医療センターと連携を図りながら救命救急センターの役割を担うとともに、南海トラフ巨大地震や豪雨・洪水などの自然災害から名古屋市民の生命を守る拠点が誕生します。今後も名古屋市との強い連携を基盤に、第二、第三の発展・飛躍の矢を放ってまいります。医学研究科は発展を続けてまいります。皆様方の暖かなご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

医学研究科長　道川 誠

名古屋市立大学病院

名古屋市立東部医療センター

名古屋市立西部医療センター

“瑞医の由来”

『瑞医（ずいい）』という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port（港・空港）」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

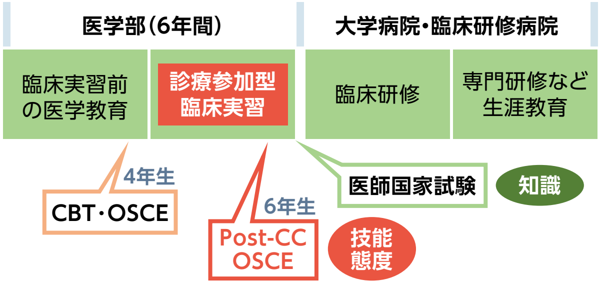
教　育

共用試験Post-CC OSCE（診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験）を実施しました

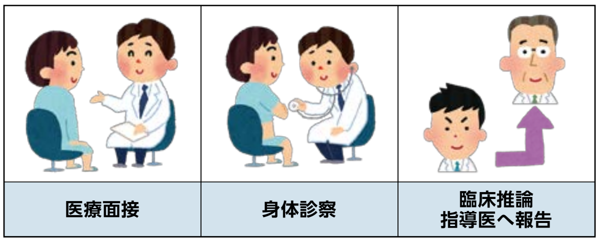
2020年10月10日（土）、本学医学部6年生102名に対して共用試験Post-CC OSCE（Post-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination、）を実施いたしました。

段階的に導入されてきた新カリキュラムに基づく医学教育では、卒業時に研修医として医療現場に参加できる資質（研修医として病院で患者診察を任せることができるレベル）を担保することが求められています。目標レベルに達したことを確認するために、全国の医学部が協力して標準化された共用試験がPost-CC OSCEです。旧カリキュラムで主体であった座学（知識習得）から、頭痛や胸痛など具体的な症状を訴える模擬患者を対象に、適切な問診および身体診察から病状（病名）を時間内に論理的に推論できる能力が問われます（実践的診断能力）。生半可な知識では対応できず、病態を含めた各疾患の特徴を有機的に関連付けて考察できることが必要になります。

医師の育成過程におけるPost-CC OSCEの位置付け



Post-CC OSCE の試験内容



昨年まで全国的にトライアルが行われ、2020年から本格的に導入されました。本試験では、OSCE同様に評価の標準化と公平性を担保するために、①模擬患者の標準化、②評価者の標準化、③大学間の評価の均一化が求められます。

試験当日には、大学教員・事務職員54名に加えて、機構派遣監督者・評価者7名および一般社団法人日本SP協会から24名の模擬患者さんの協力により無事に終了することができました。初回試験のために学生が試験対策を十分に行えなかったこと、旧カリキュラムから新カリキュラムへの臨床実習目標変更に対して指導内容の改善が十分でなかったことから、本試験では20名以上の不合格者を出す結果となりましたが、後日行われた再試験で無事に全員合格を獲得できることとなりました。

今回の結果を踏まえ、本学学生を良質な臨床医に育てるために、臨床実習の目標設定を教員・学生間で共有し、臨床実習方法の改善を更に継続していく必要があるものと強く考えます。2021年より名古屋市東部医療センター・西部医療センターの大学病院化が行われ、有機的な連携を行っていく必要があります。本学教育改善に向けて、今後ともご協力いただけますように、よろしくお願い致します。

文責：Post-CC OSCE実施責任者　松川 則之　　委員　植田 典浩

秋のオープンキャンパス2020も実施

2020年11月1日（日）午前11時から1時間半、名市大医学部の秋のオープンキャンパスを実施しました。今回は高校1、2年生の参加募集を中心としたため、104名中73名が高校1、2年生でした。

夏のオープンキャンパス同様、参加者の人数制限、参加者への事前感染対策の周知、座席指定制による感染発生時の事前対策、開催時間の短縮など、感染対策を十分に行ったうえで実施しました。

道川医学部長の挨拶に始まり、医学部の教育と特徴を教育担当の杉浦教授が、本学の入試変更点等を入試担当の飛田教授が解説。山崎教授および森田教授による「免疫系」をテーマとした模擬講義も行われ、短い時間ではありましたが、充実した1時間半となりました。

4年生のプレゼンテーション

学年代表の4年生は医学部生の日常生活を紹介。名市大に通う先輩のリアルな声は、高校1、2年生にとって貴重な情報となったのではないでしょうか。今回のオープンキャンパスが、受験を控えた学生にとって、本学を受験するきっかけや、受験勉強に対するモチベーションとなることを願っています。

文責：副医学部長（入試担当）　飛田 秀樹

02 教育&研究
Current topics in research

教　育

令和2年度 臨床研修プログラム マッチング結果について

2020年10月22日（木）に令和2年度 医師臨床研修プログラム マッチング結果が発表されました。

市立大学病院

プログラム名	定員	マッチ数	マッチ率
プログラム1（大学病院基盤研修）	6	6	100%
プログラム2（協力型病院連携研修）	31	31	100%
プログラム3※（小児科重点研修）	2	1	50%
プログラム4（産科婦人科重点研修）	2	2	100%

※プログラム3は、翌10月23日に二次募集を行い、1名採用が内定しました。

関連病院

病院名	定員	マッチ数	マッチ率
東部医療センター	8	8	100%
西部医療センター	7	7	100%

本学出身者：東部医療センター6名、西部医療センター2名

名古屋市立大学病院の総定員41名中40名がマッチし、マッチング率は97.6%と近年最も高い結果となりました。40名中19名（既卒者含む）（47.5%）が本学出身者となっています。当院では、医学部卒業後も皆さんをバックアップし、必要な能力を身につけるための充実した臨床研修プログラムを用意しています。また、4月には東部・西部医療センターが大学病院化され、約1,800床という大規模な環境で実践的かつハイレベルな研修が可能となっております。

また、医学部側から見ますと、6年生102名の進路（臨床研修先）概要は、以下のとおりです。

病院名	人数	病院名	人数	病院名	人数
名古屋市立大学病院	16	刈谷豊田総合病院	4	その他愛知県	18
名古屋市東部医療センター	6	岡崎市民病院	4	岐阜県	7
名古屋市西部医療センター	2	小牧市民病院	3	三重県	3
豊川市民病院	8	トヨタ記念病院	3	東京都	4
海南病院	5	一宮市立市民病院	3	その他	16

文責：医学・病院管理部教育研究課医療人育成係

研　究

「第117回日本内科学会　医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ」で学生が優秀演題賞を獲得しました!

BRJ活動は、学生のうちから臨床医としてのスキルの習得や資質を向上することを目標とした活動です。2015年に有志の学生・教員で開始し、2019年度からは医学部の選択制カリキュラムとなっています。活動の一環として学生の学会参加を支援しており、今年度は「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ」でM6の井田千晶さんと中村聡太君が発表してくれました。

井田さんは劇症型溶連菌感染症の一例について、基礎自主研修でお世話になった細菌学分野教授長谷川忠男先生のご指導のもと基礎医学的な検討を加えて原因病態を考察してくれました。中村君はBSLで自ら受け持った症例について神経内科学教室藤岡哲平助教のご指導のもと追及を深め、世界的にも稀な発症機序であることを解明して発表してくれました。全国の有名研修施設の研修医が多数参加する中、両名とも優秀演題賞に選出され、中村君はさらに筆頭著者として英語論文にまとめてくれています。

両名とも自らの意思で発表に挑戦し、コロナ禍で日程や発表形態が何度も変更されるなか粘り強く準備に取り組んだことが成果につながったと思います。卒業後も積極的な姿勢と粘り強さを忘れず大きく成長してくれることを願っています。

文責：高度医療教育研究センター　准教授　高桑 修

リサーチアシスタントの成果発表会が実施されました

リサーチアシスタント（RA）は、博士課程の大学院生が本学における研究活動の推進、強化のために各研究室の研究プロジェクトに対する実験・技術支援のための研究補助者として参画する制度です。研究遂行能力の醸成とともに業務に対する対価として謝金を支給しています。平成27年度からRAに任用された大学院生には実施した成果発表を義務付けており、毎年12月に開催されている医学会総会においてポスター発表を行い、大学院教務委員会委員による評価が実施されています。今年は12名のRAから発表がありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から医学会総会開催日である2020年12月6日から12月11日までポスターを掲示し、その間に評価を実施しました。

文責：医学研究科大学院教務委員会委員長　高橋 智

03 時の人
People in the news

新任教授紹介

心臓血管外科学分野―　須田 久雄　教授

2020年12月1日付けで心臓血管外科教授を拝命しました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私は九州・熊本の天草で生まれ育ち、1985年に佐賀医科大学（現佐賀大学医学部）を卒業後、北部九州（佐賀、福岡、長崎）にて心臓血管外科の研鑽を重ねて参りました。2009年に東部医療センターの心臓血管外科開設に参加させて頂くまでは生粋の九州男児です。今は名古屋の住みやすさを満喫し、大好きな名古屋めしを毎年九州の親戚に送り届けております。

2015年7月に本学着任後は、成人心臓血管外科（虚血性心疾患、弁膜症、大血管疾患）を担当してまいりました。現在、動脈瘤に対するステントグラフト内挿術、カテーテルによる弁置換術といったからだにやさしい（低侵襲）治療も、関連診療科と共に積極的に行っております。本学には循環器内科、小児科、麻酔科、放射線科、救急科、看護部、臨床工学科などで構成する、名市大ハートチームというプロ集団があります。その一員として、チームワークを第一に新生児から高齢者まで、安全で質の高い心臓血管外科手術を提供したいと思っております。

須田 久雄　教授

この場を借りて、我がチームが日々心掛けている思いを述べたいと思います。

①No Refusal Policy：重症例や緊急例を決して断らない診療をめざします。

②Act Locally、Think Globally：軸足は名古屋に置きながら、広い視野のもと研究成果を世界に情報発信することを目標にします。

③Patient First：目の前の患者さんとその家族の立場に立って考える、医療に携わる者としての原点を決して忘れません。

患者さんと共に病と闘う名市大ハートチームを、これからもよろしくお願いいたします。

文責：心臓血管外科学分野　教授　須田 久雄

研究者紹介

神経内科学分野―　打田 佑人　研究員

脳神経疾患は、診断に難渋することが少なくありません。患者様の訴えに真摯に耳を傾けること（問診）、全身の丁寧な診察（神経学的所見）を実践することの大切さを医学生の頃より学んできました。神経機能解剖学に基づいて病巣を決定することが、脳神経疾患の診断には必須の道筋と言えます。神経症候学の位置付けが不変である一方、画像診断学は、昨今の診断装置の発展と共にますます重要性が増しています。臨床における補助診断としての役割のみならず、新規治療薬の客観的指標として用いられる画像バイオマーカーとしての位置付けが確立されてきました。私は大学院に入学後より、神経変性疾患の新たな画像バイオマーカーの開発を目指して脳画像研究に一貫して取り組んでおり、修了後もその実用化を目指して研究を進めているところです。

打田 佑人　研究員

現在は、関連施設である豊川市民病院で臨床と画像研究に従事しています。豊川市民病院の認知症外来は、10年以上に及ぶ豊富な臨床情報を蓄積しています。特にMRI装置は最新の機器を導入し、画像処理法の開発や人工知能の医療応用に向けた取り組みを始めています。撮像した脳MRIを患者様の直接的な利益のために利用（一次利用）し、大量に蓄積された画像データを将来の患者様のために役立てたい（二次利用）と考えるのは自然の成り行きと言えます。

2021年度より、ジョンズホプキンズ大学MRI研究室に留学する承諾を得ています。留学先研究室で繰り広げられる世界最先端の研究手法を学び、神経機能解剖学をどこまで再現できるかに注力して、形態学的評価にとどまらない脳画像バイオマーカー研究を深めて参ります。

文責：神経内科学分野研究員 / 豊川市民病院脳神経内科　打田 佑人

04 最新医療に向けた取り組み
Latest developments on the medical front

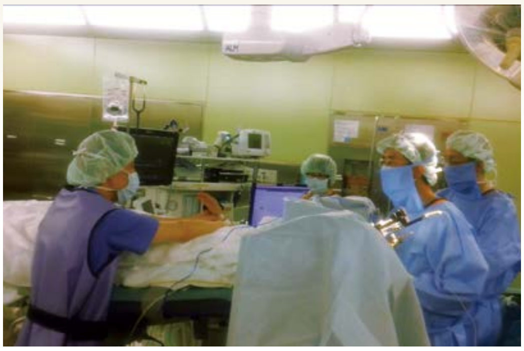
脳神経機能再生センターの紹介

2020年11月1日付けで、脳神経機能再生センターが開設されました。

急激に高齢化が進む中、高齢者特有の疾患への対応が重要な課題になっています。加齢により発症頻度が増加するパーキンソン病、認知症および動脈硬化・不整脈に伴う脳梗塞などの神経疾患も含まれます。これらの神経疾患の特徴は、神経機能（動く機能、認知機能）が低下することによる生活の困難感（生活の質の低下）です。

近年、多くのパーキンソン病治療薬が開発され、発症後10年前後に渡り生活の困難感を感じることなく過ごすことが可能になっています。しかし、進行期になると薬剤効果が十分に得られないことが生じたり、治療に付随した異常運動が生じてくることが問題になることがあります。この症状に対して、外科的治療法（脳深部刺激療法）やL-DOPA腸管内持続投与法を当院でも行うことが可能になりました。また、早期から微量電流刺激によるリハビリテーション介入が、機能維持・回復に有効であることが科学的に立証されてきました。その他、脳梗塞後の痙縮に対するボトックス治療、ジストニアなどの不随運動や痛み治療として脳・脊髄刺激療法など神経機能改善に向けた治療も可能になっています。

今回脳神経機能再生センターでは、脳神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・看護部・ケアーワーカーが協力して、当院における脳神経障害に対する治療機能（手段）をセンター化することにより、障害を有する患者さんへの集学的治療を目指します。治療介入や社会的資源など生活環境サポートを患者さんに即した形で提供し、生活の質を少しでも向上させていただくことを目的とするセンターです。



手術中の様子

脳神経機能再生センターのみなさん

特色
・近隣および周辺の医療機関からの受け入れ窓口の一元化
・受け入れ後の連携科協議による診断、治療適応の決定および治療介入
・看護、介護介入および社会資源の導入まで多職種連携で行う先進的な医療の提供

文責：脳神経機能再生センター長　松川 則之

新型コロナウイルス感染症について

当院は人工呼吸管理等を必要とする重症の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる医療機関として2020年3月より患者の受け入れを開始しています。その後、愛知県より新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定をうけ、重症から軽症まで幅広く陽性患者の受け入れに対応できるように病床再編を行い、これまでに70名以上の新型コロナウイルス感染症患者の入院診療を行ってきました。

7月から9月にかけての第2波では、当院で受け入れる患者の約半数が感染者クラスターからの隔離入院を含む酸素投与を必要としない軽症-中等症であったのに対し、11月からの第3波では急激な患者数の増加に伴い、約9割が入院当初より酸素投与や人工呼吸管理を必要とする中等症-重症例です。高流量の酸素投与を行うと、ウイルスを含むエアロゾルが発生し院内感染のリスクとなるため、陰圧個室の利用が望ましいとされています。軽症例のための病床に新たに陰圧装置を設置するなど、院内感染対策を強化する範囲を広げながら急増する患者を受け入れていくという難しい段階になってきています。

抗ウイルス薬やステロイド薬を中心とする治療の標準化が進み、第1波のころの治療上の混乱は少なくなりましたが、強力な抗ウイルス薬が未だ開発されていないため、特に中等症-重症例では回復に長期間を要します。日本呼吸器学会では新型コロナウイルス感染症後の後遺障害に関する調査を始めており、この流行を乗り切るだけではなく、回復後も長期にわたって後遺障害に注意を要する疾患と言えます。（2020年12月14日寄稿）

文責：呼吸器・免疫アレルギー内科学　准教授　伊藤 穣

05 お知らせ Information

大学院医学研究科修士課程に「減災・医療コース」が開設されます

2021年4月、名古屋市立大学大学院医学研究科修士課程に「減災・医療コース」が開設されます。中部圏では南海トラフ巨大地震発生の可能性が高まってきているなか、防災のみならず「減災」を考えることが大きな課題となっており、現在、名古屋市と協力して市立大学病院に救急・災害医療センターの設置、名古屋市立東部・西部医療センターの大学附属病院化を進めています。さらに名古屋市長が定めている「第三期中期目標」では「救急医療及び災害医療の拠点として市民の命を守るための機能を強化する」ことが掲げられており、このような背景から、本コースは減災・医療を担うキャリアアップを支援する教育システムを形成し、質の高い教育を実践することで、減災・医療等に貢献できる幅広い人材を育てること、これに関連した研究を推進することを目的としています。

コース修了者は、職種や組織を横断してリーダーシップを発揮し、減災・医療などの分野で社会に貢献できる、豊かな経験と人間性、高い倫理観、優れたコミュニケーション能力を備え、持続可能な社会の形成に貢献することが期待されます。

文責：医学研究科大学院教務委員会　酒々井 眞澄、高橋 智

医学研究科修士課程「減災・医療コース」学修課程

共通教育科目（14単位）

前期開講科目
- 減災・医療学概論
- 臨床医学概論
- 社会医学系基礎
- 生理系医学基礎
- 病理系医学基礎
- 実験手法概論
- 臨床医療デザイン学概論
- 最新医学概論（通年）
- 臨床基礎特論（通年）
- 総合認知症特論

後期開講科目
- 減災・医療学特論 I・II
- 基礎医科学概論 I・II
- 臨床医療デザイン学特論
- 緩和終末期ケア特論

（共通教育科目は各2単位、必修5科目）

専門演習特別研究（16単位）

研究室（分野）に所属し
各研究テーマに取り組む

実験・データ解析・
プログレス発表会（2年次）・演習・
学会発表

など

2年間で30単位を修得 →

学位（修士）論文・審査・最終試験

連携・協力

- 「地域・在宅医療/老年医学特論」（本学大学院医学研究科博士課程共通教育科目）を履修可能
- 本学大学院薬学研究科との単位互換制度により同研究科博士前期課程の所定の共通教育科目を履修可能
- 本学大学院看護学研究科教員による講義（予定）

豊川市地域医療連携推進学、地域医療教育研究センター豊川市民病院分室の設置について

本学は、豊川市との連携協定に基づき、令和2年10月に寄附講座「豊川市地域医療連携推進学」を、12月には「地域医療教育研究センター豊川市民病院分室」を設置しました。

この連携協定は、「医療人材の育成や研究活動の活性化」、「高度医療の推進・地域医療を担う人材の育成」、「豊川市における救命救急や災害医療の充実」、「大規模災害・感染症などの発生時における相互援助」等を主な目的として締結され、本学と豊川市、豊川市民病院との強力な連携関係の構築に向け、非常に大きな一歩となりました。

これまでも、同様の連携協定を蒲郡市民病院、三重北医療センターいなべ総合病院と、それぞれの地域のニーズに即した形で締結し、医師の人事交流をはじめ、地域医療水準の向上のためのサポートや、地域医療を担う人材育成を推進してきました。これらの寄附講座や地域医療教育研究センター分室が設置された事によって、両病院とは、これまで以上に良好な連携関係を構築しています。

今回設置された豊川市、豊川市民病院との寄附講座は、「豊川市や東三河（南部・北部）医療圏における地域医療ネットワーク構築に関する研究」や、「豊川市民病院の高度専門医療・地域医療を担う医師の養成と研修プログラムの研究」、「豊川市民病院の救命救急センター機能の調査・研究」の3つを主な事業としています。

地域医療教育研究センター分室の設置、医師の人事交流も相まって、これからは豊川市や豊川市民病院とも、これまで以上に良好な連携関係となり、双方が発展できる関係性となることに期待しています。

文責：教育研究課学術研究推進係・事務課事務係

05 お知らせ Information

開学70周年記念事業 学生会館リニューアル・オープニングセレモニーを開催!

2020年10月31日(土)、滝子キャンパスの山の畑会館(学生会館)NCUホールにて、開学70周年記念事業「学生会館リニューアル・オープニングセレモニー」を挙行しました。

セレモニーでは、まず郡 健二郎 理事長が「先人が歴史の中でご苦労されたことをかみしめ、深く感謝し、次の世代の若者に思いを託していきたい」と式辞を述べました。続いて、来賓を代表して名古屋市立大学交流会 土屋 隆 会長より祝辞を賜りました。

その他、学生会館リニューアルの内容や同会館2階に新設した「名古屋市立大学大学史資料館」の説明、学生会館の愛称・名称採用者の表彰が行われました。最後には学生代表より、多大なるご寄附により学生会館が生まれ変わったことへの感謝の意が述べられ、式典が締めくくられました。

文責:学生課課長　藤井 章、学術情報室室長　関山 友康

山の畑会館(学生会館)外観

NCUラウンジ(談話室)

新設された
名古屋市立大学大学史資料館

展示の一部　名古屋市立
女子高等医学専門学校入学生『誓』

市民公開講座　「漢方のチカラ」を開催しました

2020年11月28日(土)に市民公開講座が病棟・中央診療棟3階大ホールで開催されました。以前より3密を防ぐため定員を100名に絞り予約制で受け付けておりましたが直前になり新型コロナウイルス感染第3波が襲来したこともあり出席状況が心配でありましたが、70名を超える市民の方に出席していただき3密を避けることもでき盛況裏に無事終了しました。漢方診療の歴史、基本概念を含む診療一般の話から始まりさらには名古屋市立大学病院漢方外来の特徴の紹介、実際の症例の紹介まで1時間半にわたる講演となりました。出席者には非常に熱心に聴講していただき感染予防の観点から質疑応答は中止となりましたがそれでも何人かは質問したかった様子が見受けられ漢方医学に対する興味と期待を持っておられる方が多数来院されていたと感じられた講演でした。益々各科との連携を密にしていき市民に浸透していくように活動を広げたいと考えております。

文責:漢方医学センター　センター長　野尻 俊輔

NEWレジデントグランプリで入賞!

名古屋市立東部医療センター、名古屋市立西部医療センターと合同でレジデントグランプリを開催いたしました。当会は研修医の知識・研修意欲の向上を目的に開催され、各病院で経験した貴重な経験・症例を発表し、審査員により優秀であった研修医に賞が与えられます。ハイレベルな症例発表の中、当院の2年次研修医 船井 政希さんがリハビリテーション科を研修中に経験した症例を発表し、3位入賞を果たしました。

名古屋市立大学病院では研修医の臨床面だけでなく、学術面でもサポートできる体制を整えております。名古屋の医療を支える最大の病院群として引き続き名古屋市立東部医療センター・西部医療センターと連携を強めてまいります。

文責:総合研修センター

05 お知らせ Information

実験動物感謝式が挙行されました

令和2年度の医学研究科実験動物感謝式は、動物愛護週間後の9月29日に、動物慰霊碑前で取り行われました。新型コロナ感染症による出席制限があったものの、最終的に例年と変わらない144名の方々のご出席を賜りました。式では、令和元年度にその尊い命を捧げられた動物たち37,359頭（8種）に対して、参加者全員で黙祷を捧げたのち、道川研究科長、鈴木動物実験委員会委員長が感謝の言葉を述べられました。また、参加者全員で献花を行って、自身の責任の重さと命の大切さについて、改めて見つめ直す時間となりました。

文責：医学研究科動物実験委員会

令和2年度 学長表彰、永年勤続表彰及び論文表彰について

令和2年度の学長表彰、永年勤続表彰及び論文表彰を実施しました。例年であれば、開学記念日（10月28日）に大学本部にて表彰式を行っていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、全学での表彰式は中止となったため、医学研究科独自に表彰式を執り行いました。被表彰者は右記の通りです。

学長表彰・永年勤続表彰（令和2年10月28日）

種類	所属	補職	氏名（敬称略）
学長表彰	環境労働衛生学	准教授	伊藤 由起
	消化器・代謝内科学	准教授	田中 智洋
永年勤続表彰（20年）	機能組織学	教授	鵜川 眞也
	産科婦人科学	准教授	佐藤 剛
	周産期母子医療センター	准教授	鈴森 伸宏

論文表彰（令和2年10月27日）

種類	所属	補職	氏名（敬称略）
名市大発高インパクト論文表彰	血液・腫瘍内科学	准教授	楠本 茂
	臨床病態病理学	教授	稲垣 宏
国際共著論文プラス1運動表彰	実験病態病理学	教授	髙橋 智
	血液・腫瘍内科学	教授	飯田 真介
トップ1％論文表彰	地域医療教育学	教授	大原 弘隆
	加齢・環境皮膚科学	教授	森田 明理
	環境労働衛生学	教授	上島 通浩
	地域医療教育学	教授	赤津 裕康
	視覚科学	教授	小椋 祐一郎

文責：医学研究科長　道川 誠

名市大の新たな社会貢献
「名市大ブックス」シリーズを創刊！

2020年10月30日（金）、本学の新たな社会貢献活動として、教員・医師ら執筆の書籍シリーズ「名市大ブックス」を創刊しました。「健康・医療」をテーマに、各分野の記事をオムニバス形式で展開しています。現在、1～4巻までが発売され、好評いただいております。

本学の生協やお近くの書店、またはインターネットからもお買い求めいただけます。是非ご一読ください。

【「名市大ブックス」についてのお問い合わせ先】

名古屋市立大学 事務局学術課 産学官地域連携係
TEL：052-853-8308
E-mail：shakaikoken@sec.nagoya-cu.ac.jp

広報誌：瑞 医（ずいい）
発　行：〒467-8602
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
TEL（052）858-7114 FAX（052）851-4801
URL http://www.nagoya-cu.ac.jp/
※次号の発行は2021年5月下旬発行予定です。［年3回　1月・5月・9月］

我こそは通信員！

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けしてくださるサポーター大募集！「今、当講座ではこんな若手が頑張っています！」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、
E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp
医学・病院管理部経営課経営係　広報担当まで